

## 「ミッドランドパーク (仮称)」の概要固まる “市民花壇”を機に、参加型の公園づくりを

2番街とメッセ大通りにはさまれた公園「ミッドランドパーク (仮称)」の概要が明らかになりました。ベイタウン内のこれまでの公園と違うのは、住民が利用者としてだけでなく、運営者としても想定されている点です。ここでの参画を足がかりに、計画段階から知恵と力を出し合って進める参加型の公園づくりをベイタウン内でも実現させていきたいものです。

「ミッドランドパーク (仮称)」は広さ1haほど。県企業庁の計画によれば、2番街に面した東半分は遊具を置いたり築山を設けたりして子供の遊びを意識した芝生広場として整備する一方、メッセ大通りに面した西半分には遊具等は何も設置せず、多目的に使える芝生広場として整備する予定です。二つの芝生広場の間には舗石を敷き詰めて、植え込みや花壇を設けるといいます(下図参照)。完成予定は6月です。

住民による運営を想定しているのは、このうち花壇に関してです。

花壇は全部で4ブロック。3m×12m、3m×8m、3m×7m、3m×4mのものが並びます。広さは合計で93m<sup>2</sup>ですから、公園全体からすればほんのわずかなものです。県企業庁では、ここに何を植えるかを企画する段階から、実際に植えて世話する段階までを住民の手でできないかと考えています。

もちろん、新しい試みだけに検討課題も少なくありません。「植えるまでにはいいにしても、それから世話を続けていくのが大変」「必要な経費はだれが負担するのか」「公園が完成した段階で管理を引き継ぐことになる千葉市

はどう考えているのか」などの意見が、構想を知る住民の間から出ているのも確かです。

結局は、どれだけ楽しんで続けていくことができるかがカギでしょう。その点はフタを開けてみないことにはどうなるかわかりませんが、楽しく続けられる仕掛けが必要なのは間違いないでしょう。それがなければ次第に義務感や負担感が増えていく恐れもあるでしょうし、なにより、花壇の管理という行政サービスの肩代わりに終わってしまいかねません。

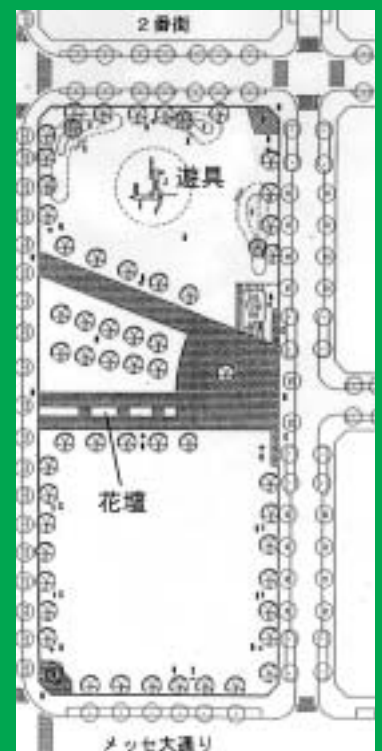
花壇づくりでの経験や実績は、参加型の公園づくりに結び付いていく可能性を秘めています。運営の一端を担うことで「公園は自分たちのもの」との意識が深まれば、こんどは思い通りのものをつくってみたくなるかもしれません。管理者となる市が住民の経験や実績を評価してくれば、公共施設である以上欠かせない行政との交渉ごとスムーズに運ぶかもしれません。

自分たちで利用する施設は自分たちの考えを生かしてつくっていく—参加型への第一歩としてまずは、花壇づくりから始めてみませんか。

\* \* \*

3月14日(日)午後2時から10番街の集会室で、花壇づくり参加希望者の第1回会合が住民有志主催で開かれます。当日直接会場に足を運んでいただければいいとのこと。 「わたしひとりでもやってやるわ!」というやる気まんまんの方から、「もうちょっと詳しく話を聞いてみたい」という気軽な方まで、ふるってご参加ください。会合についてのお問い合わせは、3番街 林さん(TEL:211-0105)まで。

### ●ミッドランドパーク (仮称) 予定地と計画図

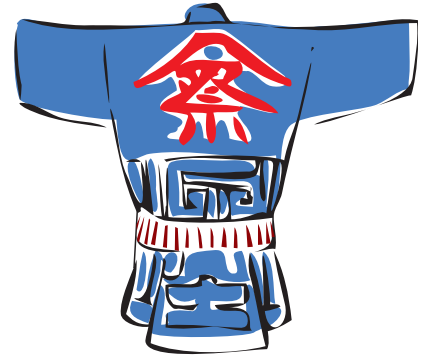


(県企業庁資料をもとに作成)

## 自治会連合会は臨戦体制 ベイタウンまつり 1999

今年もベイタウンまつりの5/9開催が決定されましたが、これに合わせて自治会連合会も本格的な準備作業に入りました。今後5/9の開催日直前まで、毎月2回の連合会の定例会議は6:30開始とし、30分間連合会関係の議題を処理

した後、7:00以降はベイタウンまつりの準備のみに行うことにしました。どんなイベントを行うのか。予算はどうか。去年の実績があるとはいえ解決しなければならないことが山ほどあります。今後各番街やクラブに対して概要の発表と協力の要請を行いますが、皆様の協力をお願いします。



### ● 防災委員会アンケート

各番街に配布し2/21に回収提出することに決定

### ● 新規入居街区への対応

グランパティオス公園西の街へ新規に入居される方に対し、99ベイタウンまつりへ招待するビラを配布し、入居説明会へ出席して自治会連合会の説明を行いました。今後オープンが予定されるパティオス15番街やセントラルパーク、グランパティオス公園東の街へも同様のアプローチを行います。

### ● 住宅都市整備公団と協議

自治会連合会では毎月1回のペースで千葉県企業庁との定例会合を行っています。去る2/16のミーティン

グには住宅都市整備公団の幕張ベイタウン担当者にも出席いただき、ベイタウン内で問題となっている路上駐車問題や7月オープン予定のパティオス15番街の管理について協議しました。最近ミラリオの住民の方から多く寄せられる公団への要望についても申し入れを行い、空き駐車場の紹介や違法路上駐車を取り締まりにも協力してもらったこととしました。

幕張ベイタウンでの今後の開発には住宅都市整備公団による街区が多くあり、この街のコミュニティの形成には公団の地域と一体となった真剣な取り組みが不可欠です。今後は自治会連合会でも街作りへの住都公団の積極的な参加を求めていきます。

## 企業庁だより

幕張新都心住宅地区での平成10年度末(99年3月末日)までの動きについて

### 1. 新規入居街区

グランパティオス公園西の街、A棟およびB棟  
入居戸数129戸  
住宅事業者：幕張シティ

### 2. 公共施設設備工事

幕張海浜公園からベイタウンに通じる横断歩道の立体化工事(住宅地道路デッキ工事)の主な工事が次の通り行われます。

(1) SH-1街区(セントラルパーク・ウェスト)住棟前のスロープ部分

工事期間：平成11年2月10日から平成11年8月18日  
施工者：清水建設(株) 現場代理人：秋葉啓悦

(2) 公園大通りの横断区間

工事期間：平成11年2月5日から平成11年11月(なおこの期間のうち現地で工事が実際に行われる期間などについては、別途お知らせします。)

施工者：三井不動産建設(株) 現地代理人：千葉二郎

(3) 幕張海浜公園内工事

立体化することにより公園内では盛土工事が必要になりますが、これについては、現在工事発注に向けて準備中です。具体的な内容は、決まり次第お知らせします。

公共施設設備工事についてのお問い合わせは、企業庁千葉建設事務所住宅地区建設班(TEL:043-278-2211)へお願いします。

# ベイタウンニュース編集局発・一通の投書から

読者から「最近のベイタウンニュースは路上駐車問題ばかりでおもしろくない」、「この街のいやな面ばかり強調され、本当にこの街に住んで（または、住むことにして）良かったのか、考えさせられる」といった声が寄せられています。そのような声の中ですが、せっかく議論が活発になってきたので、もう少し掘り下げてみたいと思います。“臭いものにフタ”をしては、決して“におい”の元はなくなりません。

【板東】

## 路上駐車当事者からの投書

ミラリオの住民で、路上駐車をしている当事者の方から投書がありました。これまでのこの件に関する当事者からの投書に共通している点は、「止むに止まれぬ事情がある（自分も被害者）」という点です（一方、より多数の“確信犯”からは何の声も届いていません。まあ当たり前ですか、言い訳しようがないのだから）。

さて、投書の主旨ですが、

1. 公団の「駐車場 100%確保」といううたい文句を信じたが、抽選の結果決まったタワー型駐車場には左ハンドルが入らなかった。そのため車をわざわざ買い直したが、今度はサイズオーバーで、やはり入らない。今はやむなく遠く離れた所に駐車場を借りているが、あまりに不便で路上駐車することが多い。
2. 公団に善処（駐車場の増設、紹介）をお願いしたが、個人で言っても何も聞き入れてくれない。
3. ベイタウンニュースはこのような事情を良く調べもせず一方的に糾弾するばかり。特に、ミラリオを悪者扱

いする。  
といったものでした（投書は7ページに渡る長文でしたが要約させて頂きました）。

この投書から、いくつか問題点を検討してみましょう。

## 「家に入らないタンスは買わない」理論

筆者自身は交通委員会のメンバーではなく、同委員会の会合には出席したことはありませんが、当初は「家に入らないタンスは買う方が悪い（駐車場に入らない車は買う方が悪い）」といった論調が大勢だったと聞いています。確かに、車を買う時（登録するとき）には車庫証明が必要であり、車庫証明書は車の諸元と駐車場の契約書を元に、所轄警察署が確認のうえ発行されるはずなので、ここでミスマッチはチェックされなければなりません（今回の投書の方のケースでは、わざわざ買い直したのに、なぜ投書のようなことになったのかは不明です）。すでに車を持っている場合にはこのようなチェックは働かず、大家さん（公団）に確かめても、契約率を上げたい大家さんが無責任に「大丈夫です」と言うケースが多いようです。また、ダメだと分かっていても、経済的事情や家庭の事情（家業に使う車、身体障害者、等）でやむなく越してくるケースもあります（車はタンスと違って、外に置いておいて雨に濡れても大丈夫です）。

交通委員会にもこのような事情を持つ方の声は届いており、徐々に空気は変わってきているようです。ただし、路上駐車を容認するというのではなく、このような事態も含めて「交通問題」として扱って行こうということです。交



通委員会の公式見解は、3ページの囲み記事をご覧ください。

## 公団の責任と自治会連合会の役割

この投書だけでなく、「個人で公団に抗議してもお役所の回答でちががあかない」という声はこれまでも届いています。自治会連合会としても指を咥えて見ていた訳ではなく、これまでに何度も話し合いの場を持ち、強く申し入れを行なっているそうですが、個人でなくとも対応は同じで、“ぬかに釘”状態とのこと（第18号交通問題記事参照）。公団の責任不足を問う法的根拠もないため強くは出れず、交渉は暗礁に乗り上げているというのが現状のようです（公団の担当者も、“個人”としては話は通じるが、“組織”としては動けない。それでも、担当者間では辛抱強く交渉を継続しています）。

このようなケースで効果を上げるのが住民運動、草の根運動であり、特に公団はこれからもここベイタウンで新たな賃貸住居を提供する計画もあるので、悪い噂が立てば契約率が上がらないことになるため、それなりの対応を検討するはず。ただし、そのような運動をするためには「被害者の会」ではないですが、困っている当事者たち自身が立ち上がることが必要であり、また施設を共有する他の居住者の方たちの協力・後押しも必要です。しかし、ミラリオを含みベイタウン内の賃貸番街には自治会が組織されておらず、住民の代表組織が無い状態です。このため、路上駐車に限らず、ゴミの捨て方の問題などでも話し合う場もなく、また対公団、対自治会連合会も個人レベルの行動になってしまっています（分譲番街でも自治会が組織されていない番街はありますが、管理組合という組織があるため、ある程度住民間の話し合いはできています）。

自治会連合会はその必要性は認識していても、最終的には各番街の“自主”に任せる方針で、積極的な組織化の働きかけは行なっていません。しかし、すでに『ベイタウン自治会連合会』というベイタウンの住民を代表すべき名前を冠した団体であるのですから、未組織番街の組織化に努めるべきです（もちろん、それぞれの番街が各自の意志で自治会結成を拒むのであればそれはしかたのないことです）。自治会連合会としても、このような時勢をフォローする動きがあるそうなので、次号でまとめてお知らせします。

今回投書を頂いた方のような問題意識を持った方、より良くこの街で暮らしたいと願っている方には、自治会連合会に“陳情”するだけでなく、自らそのような活動の先頭に立って頂きたい。何と言っても自分たちの問題なのですから。

## ベイタウンニュースの立場

ここまで読んできて、「あれ？」と思われた方もいるかと思えます。

「なぜベイタウンニュース（身内）が自治会連合会の問題を指摘するのだろうか？」

「ベイタウンニュース＝交通委員会じゃなかったの？」といった声が聞こえてくるようです。

確かに、今までは、自治会連合会の役員や交通委員会のメンバーが編集員を兼任していることもあり、書く側の立場が明確でないケースがありました。筆者個人にしても、

自治会連合会の役員でも交通委員会の委員でもないのに、自治会活動に肩入れしている分、どうしても自らが自治会連合会の一員であるかのような表現になっていました。

しかし、編集局も発足当初の3名から既に7名のメンバーとなり（自治会連合会のメンバー以外が4名）、『ベイタウンニュース・サポーターの会』も発足した今（先月号参照）、住民みんなのコミュニティ誌としての立場を再確認します。また、これからは「どういう立場」で「誰」が書いているのかが分るように配慮します。

なお、今回の投書の主旨の3番目の「ベイタウンニュースはこのような事情を良く調べもせず一方的に糾弾するばかり。特に、ミラリオを悪者扱いする。」という意見についてですが、ミラリオの住民自身の声を紹介したもの（第16号、第21号）にたまたま悲観的な意見が多かったため、「ミラリオの悪口が多い」と受け止められたものと思われれます。もちろん、私たちは、ミラリオの住民を特に悪者にするつもりは毛頭なく、事実（現象）を客観的に報道しています。

## 投書のルール

今回投書を頂いた方から、「投書箱がどこにあるのか書かないで投書しろなんて！」という指摘を頂きました。これまで何度か紹介してきているし、もはや街の常識となっているだろうとつい油断してしまいましたが、街には常に人が出入りしていることへの配慮を欠いておりました。現在は、2番街ファミリーマート、6番街サンエブリー、およびリンコスに、『コミュニティ誌投書箱』と青地に黄色の文字で書かれた箱が置いてありますので、そちらに投函願います。また、電子メールをお持ちの方は、編集者のメールアドレスへの電子メールでも構いません（メールの場合は、お手数ですが編集者全員のアドレスへ送信頂くと、見損じがありません）。誌面へそのまま掲載されることをご希望の方は、その旨明記のうえ、私たちの編集後記程度（200字～300字）でまとめて下さい。それ以上になりますと、どうしても誌面の都合上、編集させて頂く場合があります。また、たびたびお願いしておりますが、投書にはぜひ連絡先の記入をお願いします。掲載して良いかどうかの確認、事実関係の確認時に必要となります。さらに、今回の投書のように編集局への批判や意見を頂いたとき、こちらから誤りを指摘したり、反論したいことがあっても持って行き場がなく、精神衛生上大変良くありません（個人のためにそうそう公共の誌面を割く訳には行きません）。

連絡先記載の上で、誌面上では匿名を希望される場合は、その旨明記して頂ければ匿名で掲載します。

## 「年男・年女の記念写真が、メール友達を会わせた!？」

顔も知らない、メール友達同士の出会い・・・そんなドラマや映画も、最近ではよく見られますが・・・ここベイタウンでも、そんなドラマがありました!!

Kさんと、Sさんは、同じメーリングリストに入っていて、なんとなく気があったので・・・いつの間にかメールで文通するようになっていました。しかし、お互い忙しいビジネスマン同士、メールの遣り取りだけで、なかなか会う事ができません。

ある時「バス通勤の日ならば、2人とも同じバスを利用しているので会えるかもしれない」と思ったSさんのメールで「衣更えて、こんなコートを着るようになりました。」と通勤着を、Kさんに知らせてみましたが、それでも顔が分からなかったため、やはり会えませんでした。

ところが、今年のベイタウンニュース1月号で、うさぎ年のKさんが「年男・年女」の撮影会に参加され、写真が載ることによって・・・お二人が、やっと会うことができたのです!!

それは2月の初め駅へ向かうバスの中・・・ベイタウンニュースで顔を覚えたKさんを見つけたSさんは、人の流れに押されながらも、降りる際に「Kさんですか??」とひとこと。すぐにドアは閉まってしまいましたが、その後、会えたことをメールで確認しあったそうです。あの記念写真が、こんなドラマを生もうとは・・・!! よかったですね Kさん、Sさん。(編)

(文中のKさんは、川島さん Sさんは、斉藤さんです。)

## 花見川を自転車でどんどんのぼってみよう

春休みの一日。花見川サイクリングロードを上流へのぼる小旅行を企画しています。花見川をすこし上ると、そこは谷津田の広がる田園風景、近代的なベイタウンとは全く違った風景が広がります。カエルやトンボ、ザリガニが住む世界です。目的地は約9kmほど上った花島総合公園(トンボ池)。ゆっくりと、途中お弁当を食べながらピクニック気分で行くので小学生程度なら大丈夫です。小3までは保護者同伴、小4以上は単独参加とします。

日時：平成11年4月3日(土) 11:00に10番街エントランス前集合  
問い合わせ先：10番街 松村(TEL:211-6853)

## 子供の安全確保のために、路上全面駐車禁止に

(投書より)

私の住む辺りも路上駐車が多く、横断歩道のすぐ近くひどい時は横断歩道にまで、車が置いてあります。我が家には4歳の子供がいますので、横断歩道を渡る時には必ず左右を確認してから渡るようにさせていますが、駐車車両に遮られ、子供の目線からでは確認が全くできません。小さい子供を持つ方は、皆さん同じ不安を持っていることと思います。

また、この状態は、車の運転者としても非常に大きな問題です。ベイタウン内を走る時は、当然徐行していますが、両サイドに停められた車の間から、いつ子供が飛び出してくるか非常に心配です。そのような駐車車両は決まった車両が多く、中には駐車場を借りていても路上に停めているものもあるので、駐車禁止にすることで、少なくとも、これらの車両は路上から減らせるはずですよ。

ベイタウン住民のモラルの低さに、日々愕然としているのですが、いずれにしても責任なきところに自由は存在しません。できれば法的規制で縛る前に、自主的に問題解決できることを望みます。(一部の自治会ではボールをたてる事にしたそうですが。)ちなみに、わたしが以前住んでいたマンションでは、来客用の車両には必ず連絡先を書いた紙を見えるところに置き、指定された場所に駐車していました。ベイタウンの住民も、この程度の自由に対して責任が持てる住民であってほしいものです。子供を巻き込んだ大事故が起こらないように、一刻も早い改善を心より望んでおります。◆皆さんはどうお考えですか？(編)

## 編

■久々に復帰することができました。本業多忙で編集に係わる事ができませんでしたが、少し先が見えてきたようなので、さらに良い情報を提供して行く為にがんばります。さて、この3月からは街の入口で建設中であった街区の住民が入居してきますし、駅までの道のりはブリッジ建設のためいろいろな変化が始まりました。

ベイタウンに居住しては4年ですが、先住民意識で街の調和が乱れる事がないよう自戒していきたくと思います。

企画：#3-220号金一剛(T&F211-0388/ikkim@xa2.so-net.or.jp)

■朝、ミラリオの窓から稲毛方面を見ていると・・・建物のあいだから、空をロゼ色～黄金色のグラデーションに染めながら、大きな日輪が昇ります。また、夕方には西の方角で、刻一刻と地平線に隠れて行く、素晴らしい夕日を見ることもできます。そして冬の夜、自転車を走らせながら空を仰いで見ると、冴え渡る星空のきれいなこと・・・六甲山の山際の曇り具合で、天気

## 集

を占っていた神戸の空もよかったけれども、ここベイタウンの広い空にも愛着を感じ出しています。

今後、高層マンションが建ってきても・・・空の美しさが変わりませんように。また、その美しさが分かる人たちが、沢山住む街でありますように。

記者：ミラリオ浜田 貴代子(atmark@pop01.odn.ne.jp)

■立春も過ぎ、ベイタウンの空き地でもヒバリの鳴き声が聞かれるようになりました。3年前にここに越してきたときは、周りは草地だらけ、現在高層街区が建設中のプロムナード入口の両側の空き地でも、毎日ヒバリが朝早くからうるさい程の声で鳴っていたのを思い出します。今もヒバリの声は聞こえますが、その声は確実に小さくなっています。今はベイタウンも変化の真っ最中です。

工場長：#10-612号松村(T&F211-6853/m-matz@mxq.meshnet.or.jp)

■ベイタウンに住んでよかったと思っていること。マンション住人同士があいさつをすること、京葉線から海が見えること、ニュースづくりの友だちができたこと、「新聞、頑張ってくださいね」と言われること、休日の公園、毎朝出会うセキレイ…。いいことを数えて暮らしたいと思うのは楽観的過ぎるでしょうか。

タウンスケッチ記者：#3-310号佐藤則子(T&F211-0090)

■先月号の編集後記で「ベイタウンの道路が全面駐車禁止になったらどうしますか?」と問いかけましたが、投書の方から「あなたが私の立場だったらどうするの?」と逆に質問されてしまいました。きれいごとには聞こえるかもしれませんが、私だったらとあえず車はあきらめます(陸の孤島に住んでいるならいざ知らず、本当になくは生活できない、というものではないと思いますので)。ただ、そんなこと(全面駐車禁止)にならないように、住民の力を合わせたいですね。

編集：#1-210号板東司(T&F211-0289/tbando@dp.u-netsurf.ne.jp)

■ウチの子供は、「かるがも館」の裏庭にある池とかマンションのすき間とか、こじんまりしたところが好きなようです。

## 記

まだ小学生や幼稚園児だから小さいからか、人間として器が小さいのかはわかりませんが、埋め立て地にありがちな、とにかく平らで広い、大ざっぱな空間は苦手なようです。

ベイタウンには公園もあれば空き地もあるので遊ぶ場所には事欠かないんですが、子供にとってはもちろん、おとなにとっても「楽しい空間」は案外少ないのでは、と思います。自分たちでつくるしかないですね、これは。

記者：茂木俊輔(T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)



ペイタウンニュースでは、創刊以来、毎号学校関係の記事に1ページを使い、打瀬小学校・打瀬中学校の紹介を行ってきました。これは産声をあげたばかりの幕張ペイタウンという街のコミュニティの形成に、学校の果たす役割が非常に重要であると考えたからです。

ペイタウンも開村以来4年が過ぎました。多くの番街では自治会が結成され、共通のイベントやクラブの活動によって曲がりなりにもコミュニティが自立してきたように思えます。ここにきてペイタウンニュースの学校紹介の記事もその初期の目的は達成されたと言えるかもしれません。最近、ペイタウンニュースが行ったアンケートで「学校関係への記事の片寄りが見られる」という意見があったことも、これを反映しているものと思えます。

しかし、ペイタウンでは2001年には第2小学校が開校し、2002年には学校の週5日制が実施されます。また、最近の中教審の報告でも、今後学校がより地域に密着した教育を行うことが求められ、その具体例として地域住民を先生に招いての授業や、学校単位の評議会の設置が挙げられています。一方、地域という視点から学校を見ても、保護者だけではなく地域住民が子供たちと教育や遊びの場を通じて交わることは、住民自身のコミュニティでの社会参加を高めることや自己啓発に有効です。打瀬小学校の地域交流特別クラブで、ご老人の行う「昔のこどものあそび」が子供たちの人気を呼び、教える側のご老人にとって「生き甲斐を感じる」時間となっていることがよい例です。学校は保護者と教育関係者だけのものではなく、地域とその住民にとっての宝物のひとつであり、教育という問題がペイタウンにとって最大の関心事の一つであることに変わりはありません。

ペイタウンニュースでは、今後も地域での教育という問題を主要なテーマとして扱います。従来は小学校・中学校の紹介記事を1ページ構成でお伝えしてきましたが、当初の学校紹介という内容から更に踏み込み、地域での学校のありかたや住民参加の教育の方法をテーマに、別刷りで2ページを裂くことにしました。ただし、最近のペイタウンニュースの経済環境は新年号でお伝えした通り非常に厳しく、印刷は当分中学校の印刷機を貸していただいたの刊行となります。読者のご理解をお願いします。

松村

今号では、創刊以来打瀬小学校のページを執筆された宍倉教頭先生に、打瀬小学校の教育を分かりやすく集成していただくという内容で執筆していただきました。

## 21世紀の教育へ Challenge

千葉市立打瀬小学校教頭 宍倉 喜巳

下のグラフは、千葉市のある公的機関が調査したデータである。グラフ中の他校とは千葉市の各小学校のこと。また、「打瀬及び他校 実際」とあるのは授業の実態を示している。子供の意識を見ると打瀬小の子供も他校の子供も違いがない。授業の実態を見ると、打瀬小は他校と比較すると子供の願いに近い授業をしていることが分かる。

このような授業がなぜ打瀬小では可能なのか、それには二つの要素がある。一つは、やわらかい教育システム、もう一つは、子供主体の教育内容である。

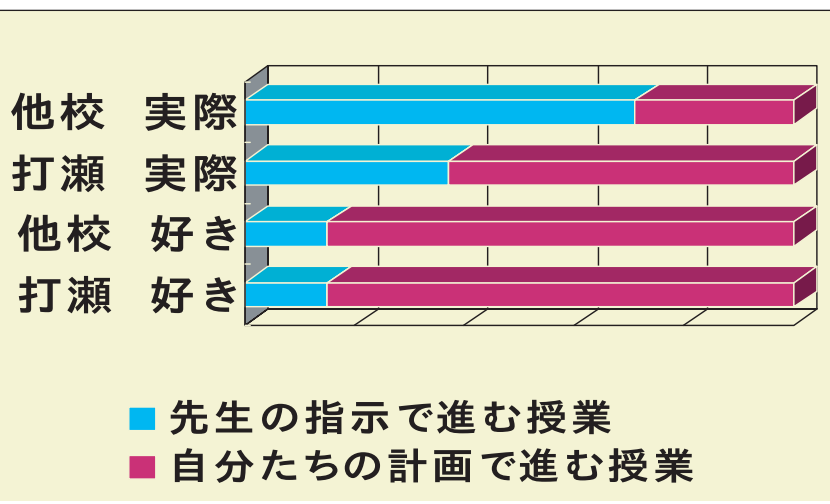
打瀬小のやわらかい教育システムは、次の2点に大別できる。

### 1. 教育組織の弾力的運用

学校は、子供主体の学びの世界である。だからといって子供だけで学校が成り立つわけではない。子供が主体的に学ぶ環境を整えるのは大人の責任だ。教育組織とは、学校における大人の役割を表す用語である。打瀬小では、見出しにあるようにその組織を弾力的に運用している。端的にいえば、みんな先生の体制づくりと言い換えられる。これも二つの点から紹介したい。

#### (1) 学年協同担任制

明治5年の学制発布以来、日本の小学校は学級担任制で一人の担任が全教科を担当するだけでなく生活指導全般までも責任を負う建前になっている。打瀬小学校も公立小学校である以上、学級組織はある。しかし、打瀬の学級は子供達の「主体的で自由な活動を規制する」ものではない。むしろ、学級の垣根を限りなく低くし、日常の活動を学級よりは学年単位を基本にした。子供の主体的な活動を前提とした場合、多様な学習形態や学習の場等を担任一人で保障することが難しいからだ。



一例を挙げよう。教科横断型の学習で「打瀬の初夏を伝えたくて」というテーマの学習を考えてみる。この場合、季節感を表現する方法は、絵・音・言葉の少なくとも3種類ある。子供の興味関心等の個人差を考慮すると一律に絵から学習を始めることは無理だ。学習の順序選択を認めると三つの学習集団が生まれ、学習の場も三ヶ所になる。これを一人の担任で面倒を見るのは至難の業。学年の複数の担任がチームを組み学級を撤廃した学習集団を構成すれば難問は解決する。副次的な効果として子供の学習集団も固定されない(例えば、初めに絵の学習を選択した子供は、次は音か言葉か二つの選択肢があり、その都度学習集団は解体される)分、無用なストレスから解放される。子供主体の学びの世界を整える上で有効なシステムと考えている。無論、学年の発達段階を考慮して弾力的に運用しなければいけない。つまり、低学年では比較的学級での活動を多くし、高学年に向かうほど学年の比重を増すよう配慮している。



## (2) 担任だけが先生ではない

子供の教育は学校だけで完結しない。学校、家庭、地域の三者が連携することで子供の望ましい人間形成が図られる。そのため、打瀬小学校は、学年協同担任制を基本とした支援体制を拡張し地域の皆様も加わった支援体制を前提に学校運営を行っている。

学年協同担任によって、子供達は学級担任の先生だけが自分の先生ではないという意識だ。また、様々な立場の大人が指導してくれることで「みんな先生」という意識も育っている。打瀬小学校が地域交流特別クラブ等で地域の皆様を学習ボランティアとしてお願いしている意味もここにある。学校の教育活動においても、マイステップ等で全教職員が指導にあたる工夫をしている。

学年協同担任制に対する子供の意識は「概ねよし」を加えると90%以上が肯定的だ。

## 2. 自己決定・自己選択の場の保障

教育組織を弾力化することで子供主体の学びの世界を整えることに配慮しても、その中で子供に自ら考え自らの責任において決定することを保障しな

れば、子供主体にはならない。打瀬小学校では、学習と生活の場においてそれに配慮している。

### (1) 学習の場において

これからの教育においては、子供の個性を生かす教育が大切である。一人一人のよさや可能性を引き出し育てる教育への転換だ。一斉画一型はその対極にある。ここで留意しなければいけないことは、一斉型の教育を全否定してはいけない。そのスタイルの学習を好む子供もいるからだ。我々大人が教育環境を整える立場に立つならば、どちらか一方ではなく多様な学習形態を用意することに留意すべきである。最終的な決定権は子供に委ねたい。無論、放任にならないよう細心の配慮と児童理解に基づきながら。

5年生の算数の実践を紹介しよう。分数の計算の単元でマイコースとマスターコースを用意した。前者は自由進度学習、後者は完全習得学習である。各コースとも最終決定は子供だ。コースの途中変更も認めた。子供が選択できるのは、コース以外に学習の場とコンピュータの利用がある。マイコースは教室で学習する必然性がないので基本的にはどこで何を使って学習しても構わない。何をどう取り組めばよいか理解しているからだ。

この学習形態においても学年協同担任制が機能していることはいままでもない。

### (2) 生活の場において

小学校においては、学習と生活を分離して考えることに無理がある。両者が渾然一体となった「暮らし」の方が子供の実態に即しているように思う。敢えて生活の部分を取り出すと、ここでも子供に大幅な選択権を認めていきたい。具体的には、教師が一方向的に決まりを押し付けないスタンスに立つことだ。誤解ないようにいえば、基本的行動様式や生活習慣等の教えなければならないことまでも子供に委ねているということではない。

打瀬小は自由な学校だ、とよくいわれるのは多岐にわたる選択の自由を子供に保障しているということである。

